副市長 …… 俵　輝孝君
副市長 …… 一宮　努君
教育長 …… 糸瀬　英俊君
総務部長 …… 庄司　克啓君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 犬束　幸吉君
しまづくり推進部長 …… 藤田　浩徳君
観光推進部長 …… 平間　博文君
市民生活部長 …… 阿比留忠明君
未来環境部長 …… 三原　立也君
福祉部長 …… 田中　光幸君
保健部長 …… 阿比留正臣君
農林水産部長 …… 平川　純也君
建設部長 …… 原田　武茂君
水道局長 …… 桐谷　和孝君
教育部長 …… 扇　博祝君
中対馬振興部長 …… 日高　勝也君
上対馬振興部長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 井　浩君
会計管理者 …… 勝見　一成君
監査委員事務局長 …… 神宮　秀幸君
農業委員会事務局長 …… 栗屋　孝弘君

午前10時00分開議

○議長（春田　新一君）　おはようございます。

報告します。糸瀬雅之君から欠席の届出があっております。

ただいまから議事日程第４号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――・――――・――――――――――

日程第１．市政一般質問

○議長（春田　新一君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、３人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。６番、佐伯達也君。

○議員（６番　佐伯　達也君）　皆さん、おはようございます。６番議員、会派、対馬の風、佐伯

でございます。よろしくお願いいたします。

今回の私の一般質問は、実は来年にはなりますけれども、令和９年、来年の新春から放映が決定いたしましたＮＨＫの大河ドラマ「逆賊の幕臣」において、対馬の危機を救った小栗忠順が描かれることが決定いたしました。これを本市の観光戦略における最大の好機と捉え、質問をしたいと思います。

来年、令和９年の大河ドラマの主人公は小栗忠順。小栗忠順公は、幕末の１８６１年の２月、このタイミングで対馬を揺るがした大きな事件がございました。その当時は対馬を揺るがしたんですけども、最終的には江戸幕府も非常にうろたえまして、ひいては日本を揺るがした事件といっても過言ではありません。それがポサドニック号事件。

この事件の簡単な概略を言いますと、ロシアの軍艦におけるポサドニック号が、浅茅湾の尾崎浦、尾崎の浅茅湾の中、あの辺に停泊をし、その後、浅茅湾の奥にある芋崎という浦があるんですけども、芋崎浦に移動し、兵舎の建設をしたりとか、農耕をするような場所を確保したりとか、家畜を飼育ということ、あと井戸を掘ったりとか、また、対馬藩に対して資材の提供を求めたり、土地の貸与を求めたりしたというような事件。また、さらには、浅茅湾内の測量をするために、浅茅湾の中をいろいろと調査をしたんですけども、そのときに大船越瀬戸を強行突破しようとしたロシア人を阻止しようとして、大船越の住民である方が命を落としたというような事件も起こっております。こういった一連の事件がポサドニック号事件として、今、語り継がれておる事件であります。

このように一時、芋崎を不法占拠するという事件がありました。その際、対馬藩からの要請に応じて、江戸幕府が派遣したのがこの小栗忠順公でした。この事件は、私個人的には、個人的にというか、対馬の歴史の中でもいろいろな事件があるし、大きな歴史的な要点はあるんですけども、今までこのポサドニック号事件は、あまり大きく取り上げられてはこなかったのかなというふうに私は感じております。その結果が、後でまたいろいろ話をさせていただきますけども、今の芋崎の状況になっているのかなというふうに感じているところであります。

小栗忠順は、江戸幕府の外国奉行として、現地、対馬に着きまして、ロシア艦隊に対して既然と交渉に当たり、本市、今は対馬市ですけども、当時は対馬藩にとっては極めて縁の深い、また対馬、ひいては日本を救った恩人といっても過言ではありません。来春の放映が始まれば、全国から多くの歴史ファン、いわゆる聖地巡礼の方々が対馬を訪れることが期待できますし、全国から現地、芋崎に行ってみたいと思われる方々が、急激に増えるものと思われます。

しかし、現状の芋崎の状況、芋崎砲台のままでは、聖地巡礼で観光に来られる方々に満足していただくことはできないのではないかというふうに、私は不安を禁じ得ません。そこで、市長、この歴史的なチャンスに対して、あと１年近くはありますが、どのように受入れ体制と現場の整

備を進めるのか、また、ＰＲ及びガイド等の取組についてもお伺いしたいと思います。

質問といたしましては、１点目といたしまして、令和９年大河ドラマを契機とした歴史文化遺産の観光資源化についてという内容で、質問の要旨としましては、令和９年の大河ドラマ「逆賊の幕臣」では、そこはもう先ほども説明いたしましたので、（１）といたしまして、聖地巡礼を見据えたハード面の整備計画についてお伺いします。芋崎までの道路の整備、市道から芋崎の砲台とか、芋崎の先のほうまで、ロシアが占拠した場所まで行くような歩道があるんですけども、途中までは車で行くことは可能なんですけども、基本的には歩いて行くという場所になりますので、その歩道も結構崩れたりしているような場所がありますので、そういったところをどういうふうに整備するのか。

また、到着した現地、ロシア軍占拠跡、またそこには、ロシア軍が本当に掘った井戸が実は２つあります。その周りには、非常にごみが集まりやすい場所でもあるというのも事実なんですけども、そういったごみが非常に集まった状況にありますので、そういった状況に対してどうするのか。

またあと、砲台もきれいな状態で残っております。ところが、結構木も鬱蒼としたりとかという状況もありますので、その辺もやっぱり観光地としてある程度は、後でも観光地整備については話をするつもりですけども、そういった状況がありますので、そこに対してどうしていただくのか。

あと、途中の道路には結構な落ち葉がたまったりとかということもありまして、歩けないことはないんですけども、足のちょっと悪いような方は歩きにくい状況もあると。先ほど言いましたやっぱりごみの集まる場所ですので。

あと、市道から歩いていかないといけないんですけども、そこには駐車場としてしっかりと確保できるような用地が部分的には若干あるんですけれども、今後、聖地巡礼というような形で多くの方が来ていただくということになると、どこまで来ていただけるか分かりませんけども、そういった若干整備は必要なのかなというふうに感じておりますので、駐車場に関して。

またあと、案内板、実はある程度整備されております。ですから、案内板に関して、私は特段の心配をしておりませんが、これも後で、これはガイドとの絡みが出てくるので、それに関しては後でも説明をさせていただきます。

（２）といたしまして、ストーリー性を生かしたソフト面の強化についてお伺いしますが、ガイド養成。小栗忠順の功績とポサドニック号事件を専門で語れる。専門でなくても、ガイドの方々、大体ポサドニック号事件についても理解はしていただいていると思いますが、やっぱりストーリー性を持って語るというふうになりますと、ある程度一定の共通認識、共有の認識が必要かなと思いますので、その辺に関しては、今後、どのようにお考えなのかなと思いまして、質問

をしたいと思っております。

あとデジタルの活用、現地で当時の軍艦や陣営を再現できるＡＲ、これは拡張現実と申しますけども、このアプリの導入とかができないのかなというふうに考えております。

もう一点、教育連携につきまして、地元の子どもたちが誇りを持てるように、指導及び現地学習の推進ということを市は考えていないのかなということでお伺いしたいと思います。

続きまして、２問目になりますけども、金田城から近代砲台群までをつなぐストーリー観光、ここでもストーリーということが出てくるんですけども、先ほどのストーリーというのは、あくまでも小栗忠順公、ポサドニック号事件についてのみの部分であり、この２番でお聞きしたいのは、金田城から近代砲台群までをつなぐ対馬全体の歴史的な価値が非常に高いと。

いろんな先生方、いろんな歴史が好きな方にお聞きすると、やっぱり対馬の歴史のすごさというか深さ、時代に応じて、もうとてつもないいろんな本物の歴史がしっかりとあり、そこをまた現地に行って見ることができる、これ金田城とかもありますけども、そういったもののすばらしさというものを評価していただいているのは事実でありますので、そういったものについての観光の構築と観光地の整備についてというところでお伺いします。

それも（1）といたしまして、ストーリー観光の構築についてお聞きしたいと思います。これもまたダブる部分はあるんですけども、観光地の整備とか駐車場、道路、トイレ、看板等、また観光の広域連携という意味で、特別史跡であります金田城から芋崎、そして、日清・日露戦争時の砲台群をめぐる国境を守り抜いた島・対馬というコンセプトの観光ルートを策定して、そういった認識で、観光会社、旅行会社のほうも、商品をつくっていただいたということもあるんですけども、なかなかそういった明確なストーリー性を打ち出したような形にはなり切れていないというのが、今の現状かなというふうに思っておりますので、そういったものをもっと最終的に商品をつくることを依頼するとか、商品の造成を一緒になってつくるというのは観光交流商工課であり、また観光物産協会というようなところの仕事になろうかと思いますけども、対馬市として、その辺に注力していただけるのかどうかということをお伺いしたいと思っております。

また、ＰＲ戦略、聖地巡礼層をターゲットに、国防の歴史をめぐる、御城印とか砲台カードと、対馬には３１か所もの砲台の跡地があるというふうにいわれております。砲台に関しても、対馬の砲台の価値の高さというものは、いろんな砲台を専門にされている先生方の話を聞きましても、やっぱり一級品だということはもう間違いないというふうにいわれておりますので、そういったものも最終的には観光資源として、今も観光資源には活用されてはおりますけども、今以上に可能性が高いというふうに、私個人的には非常に思っておりますので、その辺も含めてお伺いできればと思っております。

（2）といたしまして、市としての具体的なアクションについてお伺いしたいと思います。推

進組織を立ち上げ、市民とか、観光推進部とか、文化財課、教育委員会を横断するような、大河ドラマに関するところも入りますけども、歴史資源活用プロジェクトチームの設置、そこまではいかなくても、来年に向けてどういうふうにまた取り組んでいただくのかということをお伺いできればと思っております。

プロモーションということでありますけども、小栗忠順ゆかりの地とのいろんな地域との連携というのも、もしかしたら今までにも、観光という部分ではないにしても、いろんな地域との対馬市も連携をしておりますので、そういったこともここで考えてもありなのかなというふうに思う部分はありますので、そういったことも含めてお伺いできればと思いますので、市長のほうからの回答をよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。佐伯議員の質問にお答えいたします。

初めに、令和９年大河ドラマを契機とした歴史文化遺産の観光資源化についてでございますが、ＮＨＫ大河ドラマ「逆賊の幕臣」において、小栗忠順公が描かれることが決定しましたことは、大変意義深く、本市の魅力を全国に発信する絶好の機会であると捉えております。既にドラマ制作スタッフ等による下見が行われ、対馬観光物産協会が案内、対応を行ったと聞き及んでおります。

小栗忠順公は、徳川幕府の旗本で、幕末期に軍事・外交の要職を務め、対馬藩の領土危機に際して、島の安全を守る重要な役割を果たした人物でございます。また、ポサドニック号事件においても、対馬は国際的緊張の舞台となり、忠順公の外交的手腕が発揮された歴史的経緯を有しております。こうした背景は、国境の島・対馬の特色を示すものであり、本市の観光資源であると認識をしております。

まず、御質問の聖地巡礼を見据えたハード面の整備計画でございますが、芋崎までの道路整備やロシア軍占拠跡、砲台等の周辺整備は、現段階では難しい状況でございます。

その理由といたしましては、まず、大河ドラマにおける対馬の露出程度や観光誘客効果の持続性が不透明であることに加えて、ハード面の整備に当たっては、地域の景観や歴史的価値の保全、土地所有者との調整、日常的な維持管理の負担など、複数の要素を総合的に勘案する必要があります。

以上の点を踏まえ、整備後も長期的な誘客効果を見込めるか、慎重に判断する必要があるためでございます。

次に、ストーリー性を生かしたソフト面の強化についてでありますが、まず、対馬における小栗忠順公の功績やポサドニック号事件について、専門的に語れる歴史ガイドの養成につきまして

は、今後、対馬観光物産協会等と連携し、可能な範囲で取り組むとともに、砲台跡を観光コンテンツとして整備、磨き上げる取組も進め、ソフト面の強化と地域の魅力発信につなげてまいります。

続いて、デジタル活用として、現地で当時の軍艦や陣営を再現できるＡＲの導入は、観光資源の魅力を高める手段として有効でありますが、当時の状況を忠実に再現するための資料が十分でないため、現段階でのＡＲ導入は困難であろうかと認識しております。こうした状況を踏まえ、市といたしましては、今後、聖地巡礼者の体験ニーズの把握や専門家の意見聴取に努め、将来的に効果的なデジタル活用が可能となる基盤づくりを進めてまいります。

次に、教育関連でありますけども、教育委員会では、ふるさと学習の充実により、地域住民や保護者とともに地域を支えていくことができる人材の育成を重要施策の一つに掲げております。このことを受け、各学校では、主に総合的な学習の時間において、校種や地域との連携を深めた取組の中で、歴史や自然、文化、環境問題などを題材に、ふるさと対馬のよりよい未来を想像することができる資質や能力を持った児童生徒の育成を図っているところでございます。

本市におけるふるさと学習は、学習指導要領に示されている指導計画作成上の配慮事項に基づき、学校や地域の実態に応じるとともに、児童生徒の興味や関心に基づき、自ら課題を立てて探究的に学ぶことを狙いとして、各学校が主体的に実施しているものであります。

現在、既に小学校７校、中学校５校が、対馬の歴史や偉人について学んでいるとのことでありますが、令和９年の大河ドラマを契機として、新たな学びが期待できると考えます。関係各団体の皆様とも連携を図りながら、各学校への積極的な情報提供に努めてまいります。

次に、金田城から近代砲台群までをつなぐストーリー観光の構築と観光地整備についてでございますが、金田城整備については、現在、管理作業と巡視を中心に行っており、当面、ハード面の整備に着手する計画はございません。その金田城が築かれた城山に、旧日本陸軍によって構築された城山砲台と城山附属堡塁は、比較的良好に残っており、古代近代の歴史遺産が混同する稀有な史跡として知られております。

砲台群においても、市の史跡となっています姫神山砲台跡は、定期的に管理作業を行っておりますが、ハード面の整備については、砲台に至る動線として、緒方地区から駐車スペースまでの市道姫神灯台線を令和２年度に、全長１，４３０メートル、幅員３メートルのアスファルト舗装道路整備を完了しております。その他については、現在、具体的な計画は作成していない状況でございます。

次に、砲台群のハード整備についてでございますが、市内には、日清・日露戦争に加え、太平洋戦争時の砲台跡が３１か所存在しており、その多くは山中に立地しております。先ほどの芋崎砲台跡に関連したハード整備の答弁で述べた点も踏まえますと、これらの砲台群を対象とした大

規模な整備は、現実的に困難でございます。

一方で、上見坂堡塁跡、姫神山砲台跡、城山砲台跡、豊砲台跡など、一部の砲台跡については、道路やトイレ等の基礎的な設備が整っており、維持管理を行うことで、観光客の受入れ環境は一定水準を確保しております。

次に、日清・日露戦争時の砲台群をめぐる観光ルートの策定につきましては、昨年度、新たに作成いたしました「対馬感考」のホームページにおいて、上見坂堡塁跡、芋崎砲台跡、姫神山砲台跡、豊砲台跡をめぐるモデルコースを紹介しております。また、当該ルートについてはデジタルマップ上でも公開し、砲台跡を観光資源とした活用と来訪者の利便性の向上を図っております。また、交通アクセスのよい上見坂堡塁跡につきましては、既に一部の旅行商品に組み込まれているところであります。

こうした実績も踏まえ、日清・日露戦争時の砲台跡をめぐるモデルコースにつきましては、歴史や国防をテーマとした旅行商品として一定の魅力があると捉えております。今後も、国内旅行会社に対し、モデルコース等の情報提供を行うとともに、商品造成に向けた提案を継続的に行ってまいります。

なお、聖地巡礼層をターゲットにしたＰＲ戦略についてでございますが、既に対馬観光物産協会において、金田城及び清水山城の御城印が販売されております。また、議員御質問の砲台カードにつきましては、愛好家の収集意欲を喚起する有効な取組であると認識しております。

こうした取組は、需要の動向や収益性を見極めながら、柔軟に展開していくことが重要であり、その効果を十分に発揮する観点からも、民間事業者が主体となって取り組むことが効果的であると考えております。市といたしましては、必要に応じて情報提供などの支援を行い、来訪者の周遊促進につながる取組が進められるよう後押ししてまいります。

次に、市としての具体的なアクションについてでございますが、大河ドラマ放映後の反響は不透明であり、現時点では、市民等を巻き込んだプロジェクトチームを設置する段階ではないと考えております。しかしながら、放映後の反響や地域の機運に対応できるように、関係部局間での横断的な情報共有と連携を引き続き図ってまいります。

次に、小栗忠順公ゆかりの地との連携やサミットの誘致でございますが、忠順公終焉の地である群馬県高崎市では、地域の活性化を目的に、小栗上野介プロジェクト推進協議会が設立されていると承知しております。こうした情報も踏まえつつ、ゆかりの自治体との連携について、柔軟に対応できる可能性を探ってまいります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　６番、佐伯達也君。

○議員（６番　佐伯　達也君）　市長、ありがとうございましたというか、なかなか厳しい回答で

はありましたけど、想定の範囲かなというふうに感じております。私も正直、芋崎を整備全部してくださいというつもりは全くありませんし、できるとも思っておりません。

ところが、あそこに行くための道が、実は先週、現地に私もちょっと確認に行きましたら、やっぱり対馬市の職員の方も現地を確認に来ていただいてた方もいらっしゃいまして、その人とばったりお会いするという機会もありました。やっぱり見ていただくと分かりますように、非常に部分的には危険な部分もありますので、そういった部分を危険ですよというようなことをしっかりとロープをつけるとか、それと道路の真ん中とか、部分的に木がわっと立ったり、雑木が生い茂ったりする部分に関しては、これ過去にも、芋崎もしっかり整備していただいている過去があるんですね。

あれがどこが主体でどういうふうにしたのか、私もちょっと把握し切れていないんですけども、そういった形で、支障のないような歩行ができる状況を確保していただくという程度で、私はいいのかなというふうに思っておりますので、その辺に関して、市がするのか、どこがするのか、その辺も含めて、今後、また御検討をいただいて、せっかくの対馬が大河ドラマに関わる機会をいただいておりますので、せっかく対馬に来て、芋崎砲台ってこんなとこでね、対馬のこの日本の片隅で起こった事件が、後でまた説明いたしますが、日本を変えるきっかけになった小栗忠順公が、事件の解決に来ていただいたその場所に行ってみようと思う人たちが、行くにも行けない状態というのは、やっぱり対馬の観光としては、昨日、市長も「対馬の国内観光には、今後も力を入れていきます。」というふうな話をしてはいただいたので、そういう話もいただけるのかなと思いましたが、ほぼそうじゃなかったのもちょっと残念なところではありますけども、やっぱり今後、私も思います。

先日、４日間、予算審査というものをしたところで、対馬市の財政の厳しいところもよく理解できます。ところが、その中でどう取捨選択をしていくのかが大きな問題だとは思いますが、その中でどこに注力をするということを市長もおっしゃいました。その中で観光に当たって、予算をいっぱいつけてくださいというつもりは全くないです。必要な部分はつけていただかないと進まないとは思いますけども、やっぱりできることは自分たちでやりながら、観光受益者もしっかりとそういった活動とか、汗をかく必要もあると思いますので、そういったことはあっていいと思いますが、やっぱり行政としてやる必要な部分は、行政にお願いしなければいけないところがあると思いますので、そこに関してはよろしくお願いをいたします。

部分的には道路の半分じゃないですけど、３分の１ぐらいが崩れかかったようなところもありますので、そういったところをしっかりと分かりやすいように、それと、やっぱり本当にごみの漂着と、ごみが寄っている芋崎の一番奥の部分に井戸がありますので、あそこの清掃に関しては、これも、市の人に言って掃除してくださいというつもりもありません。

私もごみを、市のほうで海ごみに関してのいろんな取組をしておりますが、その専門の方々とも、今、協議はしておりますし、そういった人たちとそういう機会をつくっていただけないかということで話もしておりますし、非常に協力的に話は進めつつありますので、そういった形で進めるのが一番ベストかなというふうには感じておりますので、そういうふうな形と、また、市のほうにも御協力いただく部分もあると思いますので、そのときにはよろしくお願いをいたします。

あとまた、ガイドについてのところなんですけども、観光地整備とガイドの話がちょっとリンクする部分がありますので、今から説明をさせていただきますけども、今後は、ガイドの必要性はますます重要になるとは思うんですけども、今回のように、ＮＨＫの大河ドラマが対馬で撮影をされるというか、対馬が部分的にですけども舞台になるということで、芋崎の場所をしっかりと整備してくださいというようなことでできると思っていなかったと、先ほども言いましたけれども、全てを整備することは無理なことは理解をしております。

ところが、そのような対馬の観光地整備の状況も踏まえて、今後の対馬観光においては、観光地整備は完全ではなく、整備し過ぎない観光地づくりというような形での整備の仕方、それに伴って、必要になるのが観光ガイドという形で、整備ができていなくて無理やり行こうとしますと、非常に危険な場合もあると思いますけども、ある程度、不自由のない範囲で整備をしていただいたような状態の中で、観光ガイドをつけて案内をしていただくと、また、そこにはガイドを雇うというようなところでお金も発生しますし、観光業界にとっては非常にいい形になっていくのかなというふうに考えております。

観光地整備、いろんなところ、先ほども、市長も言いました、３１か所の砲台を全て観光で来られた方が自由に行けるようにすることは、多分、絶対無理です。無理ですけども、あの砲台群、対馬の砲台群の価値の高さというものに関しては、多分理解はしていただいていると思うんですけども、どこかでやっぱり今のレベルじゃないところまで持ち上げていくという必要は絶対あると。

これは、文化財課であり、教育委員会ということになるとは思いますけども、そういったことに対するエネルギーは、どこかでは使っていただければというふうに、私もそういうふうにしたいというふうな気持ちもありますし、そういったことの動きはしていきたいというふうに考えております。

あまり整備し過ぎて、逆にし過ぎるということはないと思うんですけども、し過ぎることによって、誰でもが自由に行ってすぐ自由に帰ってこれるというよりも、ちょっと行きにくいんだけども、ガイドの方と一緒に行くことによってしっかりと安全に、そして、また現地の理解が進むというような観光のスタイルを、対馬スタイルという形でつくっていけばいいのかなというふうに考えております。

そういった形が、今後、できていけるように、またガイドの会とか、そういったところとの情報共有とかもできるようにしたいと思っております。

ガイド養成という意味では、先ほども言いましたが、このポサドニック号事件に関するガイドの皆さんの知識とか、ストーリー性の統一ということは必要かなというふうに考えておりますので、先ほど市長も言いましたように、観光物産協会のほうが多分メインになって、そういう確認をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

また、ストーリー性という意味では、小栗忠順は、対馬でロシアの艦隊と直接交渉に当たった張本人ではありますが、小栗忠順公の自力、日本の力だけではロシアの艦隊を追い払うことができなかったというのが事実であります。最終的にはイギリスに力を借りて、対馬からロシア艦隊を追い払ったというような形で事実はそうなっております。

そこもちょっと微妙な部分もあるというふうには聞いておりますけども、ですから、当時の日本とロシアには軍事力の差は、絶対的な差が大きくあったと、当時のロシアの絶対的な軍事力に対して、日本の国力、軍事力の足りなさを身に染みて感じた小栗忠順公は、後の日本の近代化を最優先に取り組むことになります。対馬から帰って、そういったことを身に染みたことによって、そういう動きをされました。

その結果として、その当時の東洋最大規模の製鉄所とされました、横須賀にあります横須賀製鉄所を小栗忠順公が中心となって造ったと、建設をされました。その製鉄所があったからこそ、１９０５年、この年に何が起こったか、歴史が好きな方は分かると思いますけども、これは日露戦争における対馬沖海戦が勃発いたしました。

この対馬沖海戦でなぜ日本が勝利できたかといいますと、この小栗忠順公が横須賀製鉄所を造ったことによって、初めて日本での軍艦がしっかりとした大きさも含めて造れるような状況を確立できたということで、日本の勝利という、ぎりぎりの勝利ではあったんですけども、そういった形での勝利につながったという、これも一つの歴史的なストーリーとしてのつながりはありますので、そういったものも含めて、この小栗忠順公のポサドニック号事件を中心とした観光のストーリーの中には入れていきたいというふうに考えております。

市長、このような対馬の歴史的な事実を活用しない手はないというふうに私は思いますし、今までも活用できている部分等あるとは思いますが、こういう活用の仕方というのはいかがお考えでしょうか。もしよろしければ、回答いただければと思います。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、先ほどの答弁の中で、この芋崎までの現道を新たに整備することは、ちょっと今、難しい状況ですということで答弁させていただきましたけども、ただ、今、議員のほうから話がありましたように、今現在は車が走れる道路じゃなくて、遊歩道的なものだ

ということでございますけども、ここについては、今後、危険な箇所については改めて検証した上で、整備できるところは整備をするように進めたいというふうに思っております。

それとまた、この歴史ガイドの養成の件につきましても、先ほども答弁いたしましたように、これは、対馬の観光にとって大変重要なことであるという思いを持っておりますので、観光物産協会等と連携をした上で、どのような形で育て上げられるのか、再度、また改めて磨き上げていければというふうに思っております。

以上であります。

○議長（春田　新一君）　６番、佐伯達也君。

○議員（６番　佐伯　達也君）　続きまして、デジタル活用、これに関しましては、金額もかなりするということも理解をしておりますので、ところが、あそうベイパークのほうには、何がしかのそういった形でのものがということでお聞きしておりましたので、もしかして可能性があるのかなと思いましたけども、分かりました。

続きまして、教育連携というところで、実際に子どもたちに現地に行って、そこで起きた様子を想像すると、現地を見ていただくというのが一番いいのかなというふうには感じておりますけども、現実的には、授業の時間的な制約もあると思います。ところが、現地に行くと、本当にロシアの人たちが造ったものが目の前に現れてきますので、そういった機会もあってほしいなというふうに個人的には考えております。

とはいうものの、時間的な制約、理解できますので、総合学習の時間とか、また、ふるさと学習の時間のどこかで、しっかりと対馬で起きたポサドニック号事件というものが、世界とのつながりの中で起こった事件であり、それが、歴史上の大きな出来事なんだということを伝えていただきたいと思います。

子どもたちに、自分たちが、今、住んでいるこの対馬が歴史的に重要な場所であり、日本にとっても重要な場所ということを理解いただき、対馬に住むことの重要性であったりとか、地元に対する郷土愛、アイデンティティの醸成につながることを期待したいと思っておりますので、ぜひ、よろしくお願いをいたします。

続きまして、２問目に移りたいと思いますけども、金田城と砲台群等、唯一無二の歴史的な観光要素がありますので、そこに関してですけども、対馬は、古来より大陸との交流の最前線であると同時に、国防の最前線という国境の島としての宿命を背負っておりました。

標高２７６メートルの金田城に、今も残る古代山城、金田城は白村江の戦いから１，３６０年を迎えます。国防の原点として鎮座しており、また、平安時代の刀伊の入寇をはねのけ、近代においては、日清・日露戦争に備えた巨大砲台群が島内の各地に点在しております。これらは、時代は違えど、常に日本の盾としてこの島が機能してきた証にほかなりません。

一方で、国境は戦いの場だけではありませんでした。対馬は、戦いの場だけではなく、江戸時代は、善隣友好の象徴として歩んだ朝鮮通信史の行列、これは平和を希求した先人たちの知恵の結晶であります。現在の厳原港まつりに息づく本市が誇るべき平和のレガシーであるというふうに考えております。

さらに先ほども言いましたが、令和９年の大河ドラマが決定して、ポサドニック号といろいろと幕末の対馬が、国際情勢の荒波に飲まれようとした気急存亡のときを象徴する出来事ではなかったかというふうに考えております。

私は、今こそ、先ほどから言っておりますけども、これら古代、中世、近世、近代の歴史的遺産を、今までつなげつつあったと思いますけども、ばらばらに点在していたような状況の部分もありましたので、これを国を守り抜いた島という一つの強固なストーリーという形で結びつけて、観光の素材として、今後も、積極的に販売につなげていけるようにしていきたいなというふうに思っておりますし、市ともいろんな提案等もさせていただきながら、対馬の観光の活性化、また、発展につなげていきたいというふうに考えております。

また、観光地整備の部分におきましては、これは、お城、対馬も金田城ありますけども、金田城には、今、トイレカーという形で設置をしていただいております。ところが、いろんな対馬の砲台もそうですけども、トイレがなかなかないところがいっぱいありますので、これについての提案ですけども、観光地にトイレを造るということも、また、いろんな観光地にトイレを造っていくということは、非常にリスクもあるというふうに感じております。

ですから、いろんなところでこういう取組が始まってはいるんですが、トイレが近くにある、上見坂公園はトイレあります。金田城も、今、ありますが、いろんなところでトイレがない場所の砲台とかは、その行くまでのところで、その手前にどこにトイレがありますよということをしっかりと地図の中に、これ、デジタルマップだとまた追加もしやすいのかなというふうに感じておりますので、そういった情報を、現地にはトイレがないですよということも、もしかしたら載せたほうがいいのかなとは思うんですけども、これは先日、お城の専門家である先生とのお話の中で、こういった形で、今、いろんな地域でそういう情報の提供の仕方をすることによって、観光地ごとにトイレを造るということをやめるほうが、行政にとってもプラスになりますよというようなことでお話を聞いておりますし、そういった流れになりつつあるというふうなところはありますので、今後の対馬市の観光地のトイレに関するところですけども、整備の方向性としてはそういった方向もありかなと思いますので、ぜひ、よろしくお願いをいたします。

御城印とか、砲台カードというものは、観光物産協会のほうが中心になって作っているということは理解しておりますので、この辺に関しても、そういったものがあることによって、やっぱり観光客のモチベーションを上げるという部分はありますので、そういったことも、今後に向け

て進めていただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

今回の小栗忠順の話を出す、今回の機会をいただいた中で、もし、本当に歴史的にあのタイミングで小栗忠順がいなかったら、対馬の歴史、あるいは日本の歴史ってどうなっていたんだろうと。これは、たらればの話かもしれませんけども、本当に対馬の歴史をストーリーとして捉えたときに、本当に歴史が大きく変わった可能性はあるのかなというふうにも感じる部分はありますので、そういったことも、観光客にもそういったことも考えていただく機会として、今回のこのポサドニック号事件、「逆賊の幕臣」というものを、いろんな意味で対馬の観光には活用していただきたいというふうに思っております。

なかなか、市長としても、行政の立場から観光地を整備するということ、また、観光に特化した予算をつけるということも難しいのは理解をいたします。お客様の動向を見てということではありますけども、動向を見てすることで、遅れを取るということは私はよろしくないかなと思いますし、やっぱり積極的にいった結果として、お客様の注目を浴びる、やっぱり対馬に興味を持っていただくということも、当然、あると思いますので、できるだけ、お金をかけずにできることは最大限進めていただきたいなというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりますが、対馬が今日まで歩んできた軌跡は、日本の国土と日本人としての誇りを守り抜いてきた国防の歴史そのものであります。古くは白村江の戦いに始まり、防人の悲願、刀伊の入寇、元寇という国防の危機、さらには、幕末のポサドニック号事件から日清・日露戦争に至るまで、対馬は常に国防の最前線の荒波を受け止めてまいりました。今も島内に毅然と佇む対馬砲台群などの威光は、その不屈の意志を現代に伝える、世界に類を見ない歴史遺産だというふうに考えております。

一方で、対馬は戦いだけではなく、朝鮮通信史に代表される誠信の交わりを紡ぎ、平和の象徴として善隣外交を支えてきた歴史も併せ持っております。

そして今、この重層的な歴史は、何代にもわたってきたこの歴史は、現代のクリエイターたちを刺激し、「アンゴルモア元寇合戦記」や「Ｇｈｏｓｔ　ｏｆ　Ｔｓｕｓｈｉｍａ」といったアニメ・ゲーム作品を通じて、世界の人々を魅了しております。これは、海外の方々には非常に有名な状態になっております。聖地巡礼に訪れる若者やインバウンド客にとって、対馬は既に一度は訪れるべき憧れの地となっている部分は間違いありません。

私たちは、現代文化が交差する奇跡的な対馬の歴史の資源を最大限活用し、ほかのどの島もまねできない、唯一無二の離島観光を確立しなければならないというふうに私は考えております。国境の島という宿命を世界を引きつける最大の強みへと転換し、対馬の新たな繁栄を切り開く、その不退転の決意を持ちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございま

した。

○議長（春田　新一君）　これで、佐伯達也君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　暫時休憩します。再開を１１時５分からとします。

午前10時49分休憩

午前11時05分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１２番、黒田昭雄君。

○議員（１２番　黒田　昭雄君）　ちょっと花粉症で、マスクをしたまま失礼をいたします。発言が聞こえなかったら、何回でも質問しますので、よろしくお願いします。

市民の皆様、そして議会の皆様、公明の黒田昭雄です。本日は、市教委による鶏鳴幼稚園の閉園議案が最終的に取下げに至った問題について、対馬市の教育行政全体、ひいては、市長の市政運営の根幹に関わる深刻な問題として、厳しく問い正すために登壇をいたしました。

御承知のとおり、さきの議会運営委員会で、市教委が上程を予定していた鶏鳴幼稚園の閉園議案が、告示日を過ぎ、開会直前という異例のタイミングで取下げとなりました。この異例の事態は、市教委自身が策定した第２期対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画に明確に違反し、対馬市市民基本条例が定める説明責任を全く果たしていないという請願の趣旨が示すとおり、市民の皆様の強い働きかけの結果にほかなりません。

特に、美津島町をはじめとする地域住民の皆様が抱いた疑問は、なぜ鶏鳴幼稚園を抹殺し、厳原幼稚園に統合と方針変更がなされたのか、どんなプロセスを経て決まったのか、地域に根差した鶏鳴幼稚園を残すという選択肢は、なぜか最初から存在しないかのごとく扱われたのは一体なぜかというものでした。しかし、市長も、教育長も、この問題に対し、最後まで市民に対し、まともな説明をしようとせず、沈黙を守り続けました。

そして、この説明責任の欠如は、第２回鶏鳴幼稚園保護者説明会における市教委の対応に、決定的に現れています。そこでは、副市長、教育部長といった市長部局並びに市教委のナンバー２が参加していたにもかかわらず、市教委が保護者に対し、いきなり「厳原幼稚園だけ残しますって言ったら、反対ではないですか。」さらに、「鶏鳴幼稚園の人、申し訳ないけど、幼稚園に行きたい人は厳原に行ってください。」と、特定の結論に誘導するかのような、到底中立とはいえない発言がなされています。

このような行政の一方的な都合を優先し、住民の多様な選択肢を十分に検討しない独断的な行政運営、そして、統合推進計画という市教委が市民と約束したプロセスを完全に逸脱しながら、